

平成 18 年病虫害の発生と防除

農林水産省 消費・安全局植物防疫課

I 病虫害発生の概況

昨年は、一昨年と同様に春先に日本海側の地方を中心に雨や雪の日が多く、気温の変動の大きな状況が続いたことから病虫害の発生時期は全般に平年より遅くなった。その後、4月から日照不足や低温が続き、5月初めに一時天候が回復したものの、低気圧や前線の影響により北日本を除いて曇りや雨の日が多く、日照時間も少ない状態が続いたことから、水稻のいもち病、麦類の赤かび病、果菜類の灰色かび病等、病害の多発生が当初予想された。その後の夏期間においては高温の状況となり、斑点米カメムシ類、果樹類カメムシ類の多発生も懸念された。

新年を迎え、次期作に向けた病虫害防除対策を様々思案する時期となってきている。今後の病虫害防除対策については、昨年の病虫害発生動向等を踏まえた検討が進められているところであるが、その検討資料としてこれまでに公表された気象庁資料や各都道府県の発生予察情報および各種統計報告を基に、気象経過、主要病虫害の発生概況および植物防疫事業概況等を取りまとめたので紹介する。

II 平成 18 年の天候経過の概況

昨年の天候は、冬期間は一昨年 12 月から 1 月にかけて非常に強い寒気が日本付近に南下し、強い冬型の気圧配置が断続的に現れたため日本海側では記録的な量の降雪となった。1 月中旬以降は低気圧や前線の影響を受ける日も多く、東・西日本太平洋側の地方を中心に曇りや雨または雪の日が多くなり、東日本太平洋側でも大雪となる日があった。3 月は西日本太平洋側と南西諸島で晴れの日が多かったが、北日本と東日本日本海側は曇りや雨または雪の日が多く、大雪となる場所もあった。

4 月は全国的に曇りや雨の日が多く、北～西日本は低温となった。5 月は北日本では高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、東日本～南西諸島は曇りや雨の日が多くなり多雨となった。3～5 月の日照時間は全国的に少なく、

降水量が多く気温も高いといった病害発生に好適な条件が続いた。

梅雨入りはほぼ平年並で、梅雨前線の活動は活発で曇りや雨の日が多く、6 月前半には南西諸島、6 月後半から 7 月にかけては東日本から西日本にかけての広い範囲で大雨となった。梅雨明けは南西諸島で平年より早く、九州地方から東北地方にかけては平年より遅かった。このため、南西諸島を除き日照時間の少ない状況は 7 月まで続いた。8 月に入っても曇ることが多かった関東甲信地方や北日本太平洋側では、日照時間はかなり少なくなったところもあった。6 月前半や 7 月後半には全国的に低温となり、8 月には西日本を中心に高温となるなど気温の変動が大きかった。

9 月の気温は全国的に平年並みで、降水量は太平洋側を中心に少なかった。日照時間は、低気圧や前線、台風の影響を受けた南西諸島・九州南部で少なく、北日本では多かった。10 月はほぼ全国的に気温は高く、日照時間は多かった。南西諸島・西日本は高気圧に覆われて晴れが続き、記録的な少雨となった。一方、北・東日本太平洋側で低気圧の影響による大雨となる場所があった。台風の発生は 10 月末までに 19 個、南西諸島には 6 個が、本土には 3 個が接近し、そのうち台風第 10 号および 13 号は九州に上陸して九州地方や四国地方の一部で大雨となった。また、水稻の作柄は、生育・登熟期間を通じて気温はおおむね平年を上回っているものの、全国的に日照不足傾向で推移し、九州を中心に台風による潮風害などの被害が発生したことに加えてその後少雨などで推移したことから、全国では作況指数 96、10 a 当たり収量 507 kg (12 月 5 日公表) となっている。

III 作物別の病虫害発生状況の概況

1 水稻病虫害

病害では、梅雨前線の活動が活発になった 5 月下旬から 6 月下旬にかけて多くの地域でいもち病の発生は平年並み程度と予測されていたが、6 月には低温で日照不足、降雨が多く、感染に好適な気象条件が出現したことから、6 月下旬から早期防除の呼びかけがなされた。その後も病徴が進んだ地域では葉いもち病斑の発生が多くなり、7 月中旬から下旬にかけて東北から近畿までの広い地域で注意報により防除の徹底が呼びかけられた。その

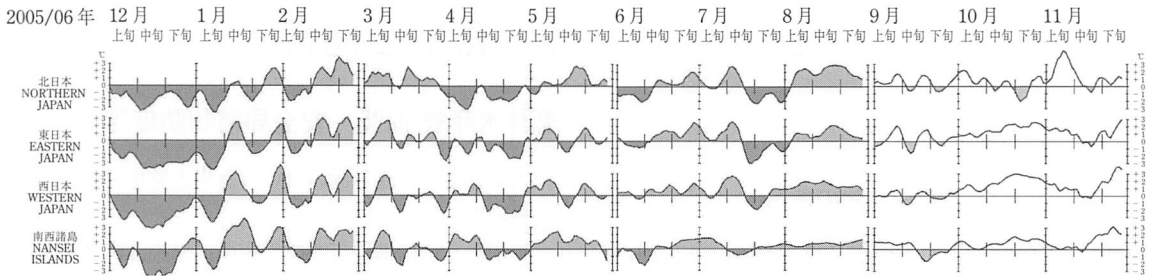


図-1 地域別平均気温年差の経緯 (5日移動平均)：気象庁報道発表資料から抜粋

後、8月に入り晴れの日が多く高温となったため病勢は抑制され、発生面積は全国的に少なく抑えられた。いもち病に関する注意報は22件発表されたが、天候の回復や適期防除が実施されたことから、被害は軽微で収穫量が減収となる事態には至らなかった。

本年のウンカ類の初飛来は平年より早く、トビイロウンカが福岡県で49日早い4月30日に、続いて熊本県で39日早い5月8日に、またセジロウンカも福岡県では平年より21日早い5月3日に初飛来があった。6月中旬には、九州から東海までの地域および南関東で飛来が確認された。その後、梅雨前線の活動が活発になった6月下旬から7月上旬にかけて、北陸・北関東までの飛来が確認された。8月中旬にトビイロウンカの警報が1件、9月上旬までに注意報が9件発表された。一方、後期害虫である斑点米カメムシ類については、6月上旬ごろから水田周辺の雑草地で発生量が多くなり始め、6月中旬から注意報が発表され始めることとなり9月上旬までの間に警報が1件、注意報が16道府県から延べ18件発表された。本年は夏期間に高温となったことから、カメムシ類の発生動向は活発となり、水田内への侵入が平年より多くなったものと見られる。

2 その他普通作物病害虫

麦では、4月中旬、開花期から出穂期を迎えた地域で赤かび病の発生に注意が呼びかけられた。4月下旬から6月上旬にかけて注意報が14件発表されたが、適期防除が実施され、赤かび病の発生は平年並か少なく抑えられた。

大豆では、吸実性のカメムシ類に対して8月中旬に注意報が1件発表された。

3 果樹病害虫

病害では、かんきつかいよう病の越冬病斑が多かったことから、3月中旬に長崎県で注意報が発表されたほか、8月上旬に降水量が多く、日照が少ないかいよう病の発生に好適な条件が続いたことから高知県で注意報が発表された。その他、なしの黒星病の注意報が7件、ぶどう

のべと病の注意報が1件発表され、適期防除が呼びかけられた。

害虫では、全国的に果樹カメムシ類成虫の越冬量が多く、また夏期間の気温が高い水準で推移したことから、5月上旬から果樹園への飛来が見られるようになり、9月上旬までに36件の注意報が発表された。その他、りんごのナミハダニ、リンゴハダニ、モモシクイガの発生について注意が呼びかけられた。

4 野菜および花き病害虫

病害は、春先から夏期間にかけ降水量が多く日照が少ない、病害の発生に好適な条件が続いたことから、灰色かび病、うどんこ病等のかびによる病害を中心に発生の注意が呼びかけられた。また、トマト黄化葉巻病について注意報が1件発表された。

害虫では、7月下旬に野菜・花き全般の害虫であるオオタバコガの注意報が山梨県から発表された。このほか、アブラムシ類、ハダニ類等の害虫の発生に注意が呼びかけられた。

近年、野菜および花き類で、アザミウマ類およびコナジラミ類が伝搬するウイルスによる病害の発生が多くなり大きな問題となっている。特に本年においては、施設栽培のトマトなどで問題となっている Tomato yellow leaf curl virus (TYLCV) によるトマト黄化葉巻病および同ウイルスによるトルコギキョウ葉巻病の発生が、新たに7道府県から特殊報により発表されている。また、当該ウイルスを媒介する、タバココナジラミバイオタイプQについても新たに25道府県で発生が見られており、発生分布が広がりつつある。これらの害虫は、薬剤への抵抗性を獲得しやすいことから、同一薬剤の連続散布を避けるとともに、生息場所となる雑草の計画的な除草、ウイルス無病苗の定植、施設開口部への防虫ネットの設置、罹病株の早期発見・早期処分、栽培終了後のハウスの蒸し込み処理等の様々な防除手段を有効に活用する総合的病害虫管理による防除がますます重要となっている。

表-1 病虫害発生・防除状況（平成 18 年 10 月 1 日現在：12 月 12 日現在の集計結果）

（単位：千 ha）

病虫害名	概 評	発生 面積	延べ 防除 面積			
(イネ)				斑点落葉病		8 129
葉いもち	東北の一部で多い、関東の一部でやや多い～多い、近畿、中国及び四国の一部でやや多い。	401	868	黒星病		0 86
穂いもち	東北の一部で多い、関東の一部でやや多い～多い、近畿、中国及び四国の一部でやや多い。	201	1,226	腐らん病	東北の一部でやや多い。	4 34
紋枯病	東北、北陸、九州の一部で多い。	503	612	ハマキムシ類		2 62
白葉枯病	九州の一部でやや多い～多い。	15	56	ハダニ類	東北でやや多い。	10 58
ばか苗病	東北の一部で多い、北陸の一部でやや多い。	12	868	(ナシ)		
もみ枯細菌病	九州の一部でやや多い～多い。	30	60	黒斑病		14 39
縞葉枯病	東海の一部で多い、九州の一部でやや多い～多い。	17	0	黒星病	全国的にやや多い～多い。	5 142
稲こうじ病	関東、中国、九州の一部でやや多い。	84	37	ナシヒメシンクイ	全国的にやや多い～多い。	1 55
ニカメイガ	北陸、近畿の一部で多い。	94	531	ハダニ類	全国的にやや多い～多い。	6 44
セジロウンカ	東海、四国、九州の一部でやや多い～多い。	611	990	カメムシ類	全国的に多い。	5 27
トビイロウンカ	中国、四国、九州の一部で多い。	84	659	アブラムシ類		7 37
ヒメトビウンカ	東海の一部で多い、九州の一部でやや多い～多い。	523	981	(モモ)		
ツマグロヨコバイ	近畿～九州の一部でやや多い。	429	735	せん孔細菌病	北陸、近畿の一部で多い。	3 39
イネハモグリバエ	東北の一部で多い。	2	8	灰星病	北陸の一部で多い。	1 39
イネドロオイムシ	関東の一部でやや多い。	148	566	(ブドウ)		
斑点米カメムシ類	全国的にやや多い～多い。	400	1,384	晩腐病		2 44
アワヨトウ		4	56	べと病	北陸の一部で多い。	4 53
コブノメイガ	近畿～九州の一部でやや多い。	229	293	灰色かび病	北陸の一部で多い。	1 26
イネミズウムシ		537	787	(カキ)		
(ムギ類)				うどんこ病		5 38
さび病類		32	217	落葉病類	北陸の一部で多い。	6 41
うどんこ病		58	268	カメムシ類	関東、九州の一部で多い。	6 27
赤かび病	全国的にやや多い～多い。	72	519	カキクダアザミウマ		2 19
雪腐病類		43	90	(チャ)		
(ジャガイモ)				炭そ病	関東、九州の一部で多い。	23 67
疫病		23	403	チャノコカクモンハマキ	関東の一部で多い。	14 40
(ダイズ)				カンザワハダニ		19 63
紫斑病		8	68	(キュウリ)		
べと病	北陸でやや多い。	43	0	べと病	関東でやや多い。	5 34
葉焼病	九州の一部で多い。	17	928	うどんこ病	関東、九州の一部でやや多い。	4 33
アブラムシ類		34	46	(スイカ)		
ハスモンヨトウ		28	66	つる枯病	関東の一部で多い。	4 23
ハダニ類		15	0	(ハクサイ)		
カメムシ類	中国の一部で多い。	21	74	軟腐病	近畿の一部でやや多い。	1 19
(カンキツ類)				白斑病		1 12
そうか病		6	51	(キャベツ)		
黒点病	中国、九州の一部で多い。	42	164	黒腐病		1 19
かいよう病	中国、九州の一部で多い。	17	62	コナガ	関東の一部でやや多い。	5 41
ヤノネカイガラムシ		2	48	(タマネギ)		
ミカンハダニ		30	123	べと病	九州の一部で多い。	1 9
カメムシ類	関東、中国、四国、九州の一部でやや多い。	13	52	(野菜共通)		
(リンゴ)				疫病		1 9
モニリア病		0	7	灰色かび病		4 25
				アブラムシ類		20 69
				ハダニ類		9 42
				ハスモンヨトウ		4 7
				ヨトウガ		3 10
				(キク)		
				白さび病		0 6
				アザミウマ類		1 7
				アブラムシ類		1 5

※なお、上記数値には一部の県の情報が含まれていません。

表-2 平成 18 年発生予察情報(警報・注意報・特殊報)の発表状況

(1) 警報・注意報(注:数字は発表年月日,斜体アンダーラインは警報)

(12月1日現在)

①イネ		葉いもち	穂いもち	いもち病	斑点米カメムシ類	コブノメイガ	その他の病害虫
北 海 道					8/14		
東 北	青森	7/14	7/27, 8/10	7/20	8/4, 8/25 7/14, 7/27 7/6, <u>7/27</u>		
	岩手						
	宮城						
東 北	秋田	7/12	7/25				
	山形	7/14	7/25				
	福島						
関 東	茨城		7/21	7/21			
	栃木			7/19			
	群馬			6/27, 7/24			フタオビコヤガ: 7/24
関 東	埼玉						
	千葉						
	東京						
関 東	神奈川	7/14	8/7	7/26			
	山梨						
	長野						
北 陸	新潟				7/13		
	富山				7/21		
	石川		7/25		7/12		
北 陸	福井				7/11		
東 海	岐阜		7/25				
	愛知		7/26		7/20		
	三重			7/25			
近 畿	滋賀		7/19				
	京都				7/20		
	大阪		7/28				
近 畿	兵庫						
	奈良						
	和歌山						
中 国 四 国	鳥取				8/4		
	岡山						
	広島						
中 国 四 国	山形						
	山口						
	徳島				8/2		トビイロウンカ: 9/5
中 国 四 国	香川						
	愛媛						
	高知						トビイロウンカ: 9/8
九 州	福岡				8/10		トビイロウンカ: 8/8
	佐賀				9/1		トビイロウンカ: 8/30
	長崎						トビイロウンカ: 7/28
九 州	熊本						トビイロウンカ: 7/31
	大分						トビイロウンカ: 8/29
	宮崎				6/23	7/28	トビイロウンカ: 7/25, <u>8/18</u>
九 州	鹿児島				6/13	7/12	トビイロウンカ: 8/29 ウンカ類: 7/12, トビイロウンカ: 8/8
沖 縄							ウンカ類: 9/8

(12月1日現在)

②畑作 (イネを除く)		ハスモン ヨトウ	その他	⑤花き類	ハスモン ヨトウ	その他
北海道			赤かび病：6/21 (小麦), 疫病：6/23 (バ レイシヨ), 褐斑病：9/4 (テンサイ)			
東北	青森					
	岩手 宮城 秋田 山形 福島					
関東	茨城		赤かび病：5/23 (小麦) 赤かび病：5/23 (小麦・六条大麦) 赤かび病：5/26 (麦類)			
	栃木 群馬 埼玉 千葉 東京都 神奈川県 山梨 長野 静岡					オオタバコガ：7/26 (花き全般)
北陸	新潟					
	富山 石川 福井					
東海	岐阜		赤かび病：5/11 (麦類) 赤かび病：5/12 (麦類)			灰色かび病：5/26 (花き全般)
	愛知 三重					
近畿	滋賀		赤かび病：5/17 (麦類) 赤かび病：5/24 (麦類)			
	京都 大阪 兵庫県 奈良 和歌山					
中国四国	鳥取					
	岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知		吸実性カメムシ類：8/14 (ダイズ) 赤かび病：4/12 (麦類)			
九州	福岡		赤かび病：4/14 (麦類) 赤かび病：4/14 (麦類) 赤かび病：4/14 (麦類) 赤かび病：4/14 (麦類) 赤かび病：4/11 (麦類)			
	佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島					
沖縄						黒斑病, 褐斑病：4/3 (キク)

(12月1日現在)

③果樹 (茶を含む)		果樹カメムシ類	その他
北海道			モモシンクイガ：9/4 (リンゴ)
東北	青森		
	岩手 宮城 秋田 山形 福島	8/11 (果樹全般) 6/9 (ナシ), 8/1 (果樹全般)	ハダニ類：5/31, 7/31 (リンゴ)
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川	6/2 (ナシ), 8/2 (果樹全般) 6/7 (果樹全般) 6/6 (果樹全般) 6/2 (ナシ) 5/22 (果樹全般) 5/15 (果樹全般) 5/25 (ナシ, カキ, キウイフルーツ, ウメ等) 8/21 (ナシ, カキ, ウンシュウミカン)	黒星病：2/27 (ナシ) 黒星病：6/15 (ナシ)
	山梨 長野 静岡		モモハモグリガ：3/20 クワシロカイガラムシ：5/10 (茶), チャノココクモンハマキ・チャハマキ：7/3 (茶)
北陸	新潟 富山 石川 福井	7/3 (果樹全般)	
東海	岐阜 愛知 三重	6/5, 8/28 (果樹全般) 6/1 (果樹全般)	黒星病：5/25 (ナシ), 輪紋病：6/1 (ナシ), ベト病：6/1 (ブドウ)
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	6/8 (ナシ, モモ, カキ) 5/26 (果樹全般) 5/31 (果樹全般) 5/29 (果樹全般), 7/14 (カキ, ナシ) 5/10 (ウメ), 8/30 (カキ)	
中国四国	鳥取 島根 岡山 広島	5/11 (果樹全般) 5/10 (モモ)	黒星病：5/11 (ナシ), シンクイムシ類：7/12 (ナシ)
	山口 徳島 香川 愛媛 高知	7/13 (果樹全般) 6/8 (果樹全般) 9/8 (カキ, ナシ, カンキツ等) 5/24 (果樹全般)	
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	8/8 (果樹全般) 7/11 (果樹全般) 4/10, 5/16, 7/7 (果樹全般) 5/15 (果樹全般) 5/31 (果樹全般) 6/23 (果樹全般)	黒星病：5/11 (ナシ), もち病：6/8 (茶) 黒星病：5/16 (ナシ)
	沖縄		クワシロカイガラムシ：5/1 (茶) 黒星病：5/23 (ナシ)

(12月1日現在)

④野菜		ハスモンヨトウ	その他
北海道			
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		べと病：6/30（キュウリ）、炭そ病：7/11（キュウリ）、褐斑病：7/27（キュウリ）
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡		トマト黄化葉巻病：10/12（トマト、ミニトマト） トマト黄化葉巻病：11/2（トマト、ミニトマト） オオタバコガ：7/26（野菜全般） 腐敗性病害：7/26（野菜全般）
北陸			
東海	新潟 富山 石川 福井		
東海	岐阜 愛知 三重		灰色かび病：5/26（野菜全般）、べと病：9/28（ホウレンソウ）
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山		トマト黄化葉巻病：8/1（ミニトマト）
中国四国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知		灰色かび病：4/5（レタス） 炭そ病：8/17（イチゴ） かいよう病：8/2（かんきつ）
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島		ハダニ類：3/3、10/12（イチゴ） ハダニ類：1/17（イチゴ）、かいよう病：3/15（カンキツ）、べと病：4/14（タマネギ）、炭そ病：7/28、9/15（イチゴ） アブラムシ類、うどんこ病、ハダニ類：1/25（イチゴ）、葉かび病：2/22（トマト、ミニトマト、中玉トマト）、灰色かび病：3/23（果菜類）、ハダニ類：10/24（イチゴ）、タバココナジラミ類：10/24（トマト）、うどんこ病、ミナミキイロアザミウマ：10/24（ピーマン）、 ハダニ類：1/31（イチゴ）、うどんこ病：1/31（果菜類）、ハダニ類：10/31（イチゴ）、コナジラミ類：10/31（トマト等）
沖縄			うどんこ病、モザイク病：1/31（カボチャ）

(2) 特殊報

(12月1日現在)

		①普通作	②果樹類	③野菜類 (花き類含む)
北海道		4/5: ジャガイモの塊茎褐色輪紋病		
東北	宮城 山形			4/25: トマトのタバココナジラミバイオタイプQ 11/14: トルコギキョウのえそ斑紋病, 11/22: キュウリのホモプシス根腐病
	福島 茨城		9/15: ナシのナシシンクイタマバエ (仮称)	5/9: トマトのタバココナジラミバイオタイプQ 1/30: トマト, ピーマン, ナス, キュウリのタバココナジラミバイオタイプQ, 8/10: トマトのすすかび病, 8/10: ピーマンの退緑斑紋病 (仮称), 9/22: トマトの黄化葉巻病
関東	栃木		2/16: ナシ果実のサクセスキクイムシ	1/16: トマトの黄化葉巻病, 3/3: トマトのタバココナジラミバイオタイプQ, 7/7: ニラ, タマネギ, ネギのIYSVによる病害
	群馬			3/24: トルコギキョウのえそ輪紋病, 5/15: トマトのタバココナジラミバイオタイプQ
	埼玉	10/10: ダイズのフタスジヒメハムシ		4/11: トマト, キュウリ, 花き類 (ポインセチア, ランタナ) のタバココナジラミバイオタイプQ, 11/15: ユリのイチゴセンチュウ
	千葉		6/14: ナシの銀葉病, 9/13: ナシの炭そ病	2/1: トマト等のタバココナジラミバイオタイプQ, 5/12: ニンニクのチューリップサビダニ, 10/13: トマトのすすかび病
	東京		9/26: カンキツ類のリユウキユウミカンサビダニ	1/12: ポインセチアのうどんこ病 (仮称), 5/17: 花き類のタバココナジラミバイオタイプQ, 9/15: ヒマワリ, ルドベキア, ミヤコワスレ, 宿根アスター, シオンのアワダチソウグンバイ
	神奈川		4/28: ナシのフタモンマダラメイガ, 8/21: ナシのチャノキイロアザミウマ, 9/28: チャのクワシロカイガラムシ	3/27: パンジーのチビクロバネキノコバエ, 6/28: 野菜類全般のトビイロヒョウタンゾウムシ
	山梨			2/8: トマト, ミニトマトの黄化葉巻病, 5/11: トマトのタバココナジラミバイオタイプQ
	長野			1/31: イチゴのビシウム根腐病, 3/17: イチゴのイチゴコナジラミ
	静岡	3/9: サツマイモのアワダチソウグンバイ, 7/10: イネ, ダイズ等のミナミアオカメムシ		3/9: キク, ヒマワリ等のアワダチソウグンバイ, 3/9: トルコギキョウの葉巻病, 6/12: トマト, ミニトマト, ポインセチアのタバココナジラミバイオタイプQ
	北陸	新潟		10/25: イチジクの株枯病, スモモ, リンゴ, ポケのスモモヒメシンクイ
東海	岐阜			4/11: 花き類のタバココナジラミバイオタイプQ
	愛知 三重		11/30: ナシ果実のサクセスキクイムシ, サクキクイムシ	1/31: トマト, シソ, 花き類のタバココナジラミバイオタイプQ, 4/28: トマトのすすかび病 5/24: トマトのタバココナジラミバイオタイプQ, 6/28: シンビジウムの裏すすかび病, 11/20: ベゴニアのえそ斑紋病 (INSV)

近畿	滋賀		9/7：チャのミカントゲコナジラミ	6/24：イチゴの角斑細菌病, 10/2：トマトのタバココナジラミバイオタイプ Q
	京都			1/4：トマトの黄化葉巻病, 4/27：トマト, キュウリ, トウガラシのタバココナジラミバイオタイプ Q, 10/25：ナスのナスコナカイガラムシ, 10/30：プラタナスのプラタナスグンバイ
中国四国	大阪		10/5：チャのミカントゲコナジラミ	5/17：トマトのタバココナジラミバイオタイプ Q
	奈良			7/5：ピーマンのタバココナジラミバイオタイプ Q
中国四国	和歌山			
	鳥取			2/3：ミニトマトのタバココナジラミバイオタイプ Q, 6/6：トウガラシの黄化えそ病 (TSWV), 11/24：トマトのすすかび病
	島根			2/27：ピーマン, メロンのタバココナジラミバイオタイプ Q
	岡山			1/17：ハクサイの黄化モザイク病 (仮称), 10/17：ナスのタバココナジラミバイオタイプ Q
	広島	9/29：キクイモ, サツマイモのアワダチソウグンバイ		1/26：トマト, キュウリ, キクのタバココナジラミバイオタイプ Q, 9/29：キクの茎えそ病 (仮称), 9/29：キク, シロタエヒマワリ, ガザニアのアワダチソウグンバイ, 9/29：プラタナスのプラタナスグンバイ, 11/28：トマトのすすかび病
	山口			2/1：トマト, ミニトマトの黄化葉巻病, 2/21：トマトのタバココナジラミバイオタイプ Q, 10/20：トルコギキョウの葉巻病
	徳島		2/15：ナシのフタモンマダラメイガ	1/13：キュウリの黄化えそ病
香川			5/15：キュウリの黄化えそ病	
九州	愛媛			1/26：シクラメンのえそ斑紋病 (INSV), 2/15：イチゴの角斑細菌病, 5/8：バラのバラハオレタマバエ, 7/25：トマト, ミニトマトのタバココナジラミバイオタイプ Q
	高知			9/19：ナスの黒点根腐病
	福岡			1/24：トルコギキョウのえそ斑紋病, 2/6：シロウリの MYSV による病害, 2/6：ラン (デンファレ) のランツボタマバエ
	佐賀			3/30：ナス, トマト, キュウリ, メロン等のタバココナジラミバイオタイプ Q
	長崎			11/15：スイカのえそ斑点病
九州	熊本			1/6：バラのバラハオレタマバエ
	大分			1/11：トマト, ミニトマト, ナス, キュウリのタバココナジラミバイオタイプ Q, 7/11：イチゴのイチゴセンチュウ, 11/1：トルコギキョウの葉巻病, 11/8：ピーマンのモザイク病
九州	宮崎			3/28：デンファレ (デンドロビウム・ファレノプシス系) のランツボタマバエ
	沖縄		4/3：ゴレンシのゴレンシトリバ (仮称)	

茶の害虫であるクワシロカイガラムシが春先から発生が多めで推移し、注意報が2件発表された。またチャハマキガおよびチャノコカクモンハマキについての注意報も1件発表された。

IV 病虫害防除事業

1 ウリミバエ

本虫の再侵入を防止するため、奄美群島、沖縄県および小笠原諸島において侵入警戒調査を実施するとともに、沖縄県において不妊虫放飼による再侵入防止対策を実施した。

2 ミカンコミバエ

本虫の再侵入を防止するため、奄美群島、沖縄県および小笠原諸島において侵入警戒調査を実施するとともに、沖縄県において誘殺剤散布による再侵入防止対策を実施した。

3 アフリカマイマイ

奄美、沖縄および小笠原諸島の被害の著しい野菜園場などにおいて、マイマイ駆除剤散布による被害軽減防除を実施した。

4 アリモドキゾウムシおよびイモゾウムシ

奄美群島においてアリモドキゾウムシを、沖縄県においてイモゾウムシおよびアリモドキゾウムシを対象にして不妊虫放飼などによる根絶防除を継続して実施している。

V 農林水産航空事業

本年度の農林水産航空事業の農業関係延べ実施面積は、2,752千haとなる見込みである。

剤型別では、液剤119千ha、液剤少量47千ha、微量剤16千ha、粒剤10千ha、粒剤少量10千ha、その

他(不妊虫等)2,650千haとなった。

本事業の基幹である水稻部門は、実施延べ面積146千haであり、畑作・果樹部門では、麦、大豆、粟等の病虫害防除が8千haであった。畜産部門は、牧野の施肥などが4千haであった。ミバエ部門はミバエ類の侵入防止対策等が行われ、2,648千haであった。

無人ヘリコプターによる病虫害防除は、800千ha、対前年を13%上回る増加見込みとなっている。

VI 農薬の出荷状況

平成18農薬年度(平成17年10月1日～平成18年9月30日)における農薬の出荷は、前年度に比べ数量では2.0%減の231千tまたはkl、金額では1.0%増の3,309億円と推定される。

表-3 平成18農薬年度農薬出荷状況(推定)

(単位:t, kl, 百万円, %)

用 途		平成17農薬年度出荷	平成18農薬年度	
			出 荷	対前年比
殺虫剤	数 量	87,193	87,319	100
	金 額	101,341	102,019	100
殺菌剤	数 量	53,644	50,329	94
	金 額	80,007	78,595	98
殺虫殺菌剤	数 量	26,191	26,463	101
	金 額	32,665	33,277	102
除草剤	数 量	61,073	59,731	98
	金 額	102,582	104,397	102
その他	数 量	7,485	6,726	90
	金 額	12,653	12,644	100
合 計	数 量	235,586	230,568	98
	金 額	329,248	330,932	101